

I S O / I E C WG21 (IT Asset Management / IT資産管理)
WG 2 1 国際会議出席報告書

2021年9月15日

篠田 (X-beat)

島田 (デロイトトーマツ)

報告者氏名 : 高橋快昇 (ITAMLAB)

1. 開催場所 : リモート**2. 開催期間 : 2021.6.14-17****3. 参加国数 / 出席者数 :**

37 名 (14 カ国, 8 リエゾン) コンビナー, 幹事, 米 (15), 英 (2), アイルランド(2), スイス (2), インド (3), スペイン(1), カナダ(1), フィンランド(2), ドイツ (1), 南ア (1), オランダ(1), イタリア(1)、韓国 (1)、日本 (高橋), ITAM Review(1)、SAMAC(3), BSA(1), ITAMForum(1), ITAM.Org(1), iTSMF(1), IAITAM(1), SC27(1)

4. 審議事項 :**4.1 WG21 コンビナー報告(Day1) :**

- 発行規格

ISO/IEC 19770-11:2021 Information technology — ITAM — Part 11: Requirements for bodies providing audit and certification of IT asset management systems

- 規格プロジェクト状況

Overview	19770-5:2015 (2 nd Ed) - Overview and vocabulary	19770-5:20xx (3 rd Ed) - Overview and vocabulary
Process	19770-1:2017 (3 rd Ed) - IT Asset management systems – Requirements	
	ISO/IEC 19770-8:2020 - Guidelines for mapping of industry practices to/from the ISO/IEC 19770 family of standards	
Guidance	ISO/IEC 19770-10 :20xx - Guidance for implementing ITAM	
Conformity	19770-11:2021 - Requirements for bodies providing audit and certification of IT asset management systems	
Information Structures	19770-2:2015 (2 nd Ed) - Software identification tag (Corrected version : 2017-03)	19770-2:20xx(3 rd Ed) - Software identification tag
	ISO/IEC 19770-3:2016 - Entitlement schema	
	ISO/IEC 19770-4:2017 - Resource utilization measurement	
	ISO/IEC 19770-6 :20xx - Hardware identification tag	
	ISO/IEC 19770-7:20xx - Orchestration of ITAM Data Structure Elements	
	ISO/IEC 19770-12:20xx - ITAM for Software as a Service	
	ISO/IEC 19770-13:20xx - ITAM for Infrastructure / Platform as a Service	
Technical Reports		
<div>Published :2006 Planned :201x In Dev/Rev :20xx Standard Tech Report</div>		

4.2 既存及び新規プロジェクトの状況

4.2.1 19770-1 要求事項 第4版(Day1)

来年で3版が5年目になるので次期版の開発を検討することが議論された。ISO 55000 アセットマネージメントのエンハンス計画とも同調する必要がある。取り合えず、NP と CD 投票を行うことになった。SC7 で承認されれば、WG21 にプロジェクトをアサインする。Ron がプロジェクトエディタになり、24 カ月の SDT (Standard Development Track) で IS を開発する。

4.2.2 19770-2 ソフトウェア識別タグ第3版(Day2)

— 2 の状況について報告があった。米国のサイバーセキュリティの改善に関する大統領命令

(<https://www.whitehouse.gov/briefing-room/presidential-actions/2021/05/12/executive-order-on-improving-the-nations-cybersecurity/>)

の中で連邦政府が調達するソフトウェアのセキュリティについて SBOM (ソフトウェア部品表) のライフサイクル全体に渡ってのより厳しい要件を発行される。これに対応できるように— 2 を改版している。また、サンプルの記述に XML だけでなく、JSON の記述も追加する。プロジェクトエディタの Dave Waltermire に対して、— 6 との互換性を考慮した変更を第3版に組み込むことが要請された。

4.2.3 19770-3 権利スキーマ 第2版(Day4)

クラウドコンピューティング、ブロックチェーンへの対応と市場の採用状況について報告があった。

- クラウドコンピューティング

現状の— 3 でも PaaS に対応できているが、資格の所有権と管理が複雑になり、エンドユーザー組織の関心は高まることが予想される。SaaS については、SLA の問題であり、ISO / IEC 19770-3 で定義および測定で問題ない。クラウドコンピューティングの SLA フレームワークは、ISO / IEC 19086-1 で概念、用語、定義、コンテキストの確立を目指している。 <https://www.iso.org/standard/67545.html> これを参考にして開発を進める。

- ブロックチェーン

E N T の署名とブロックチェーンの関連で考慮が必要であるということが議論された。

- 採用状況

- エンドユーザー組織 (例)

- ✧ Wells Fargo and other clients of “Doc” Burnham

- SAM ツールプロバイダー

- ✧ 1E – AppClarity

- ✧ Sassafras ソフトウェア – KeyServer

- ソフトウェアライセンサー

- ✧ Crickets…

- SAM マネージドサービス

- ✧ Steve O’Halloran

- ✧ AssetLabs Inc.

4.2.4 19770-4 資源利用測定 第2版(Day1)

当規格も来年で5年目になるので次期版の開発が検討されている。もともと IBM スタッフによって規格化されたの

で IBM スタッフに問題がないかを確認する。Resolution では、取り合えず、NP と CD 投票を行うこと。SC7 で承認されれば、Rick が Project editor, Ben が Co-editor になり、24 カ月の SDT (Standard Development Track) で IS を開発する。

4.2.5 19770-5 概要及び用語第 3 版(Day 3)

Peter と Ramesh により開発状況が報告された。19770 シリーズのすべての共通用語と概要の開発が完了した。(用語のクロスレファレンスを作成するところは、Roger のツールにより行われた。) 若干の修正を行い、WG21 に送付する。

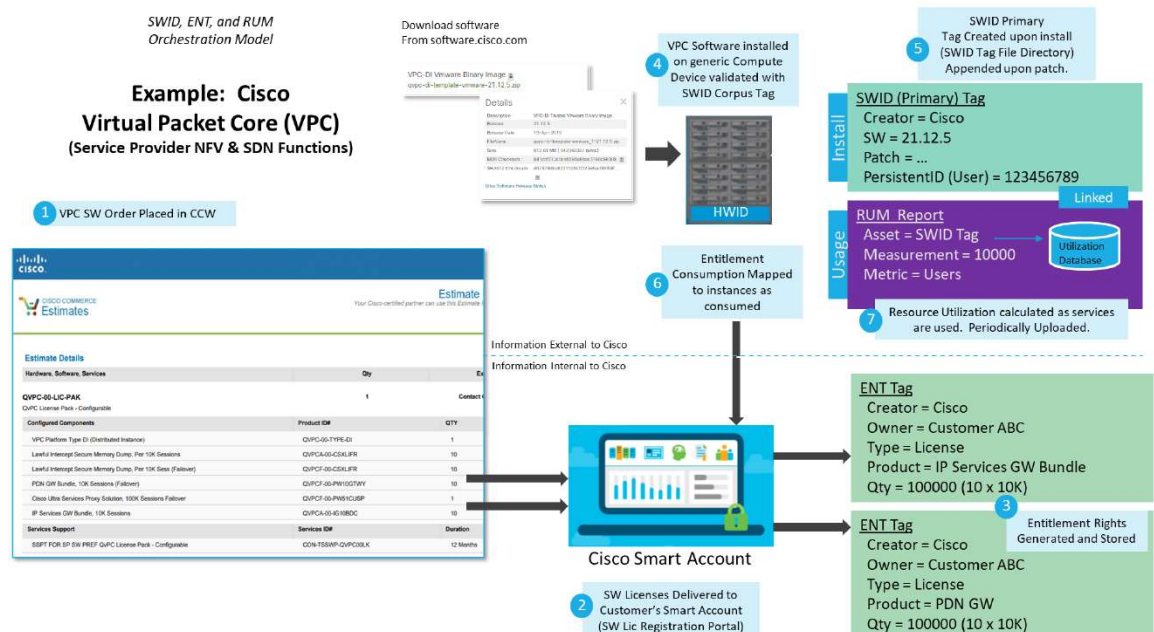
4.2.6 19770-6 ハードウェア識別タグ(Day 3)

2 月に 1stWD に対し、WG21 内でコメントを行ったが、hwidType に対して“System”タグを導入するときの考え方、System タグに要素ではなく Link で複数のハードウェアを管理などの日本からのコメントはすべて採用された。また、XML だけでなく JSON サンプルの記述も追加してある。WG21 内で 7 月 22 日までレビューされる。その後 CD 投票に移行する。

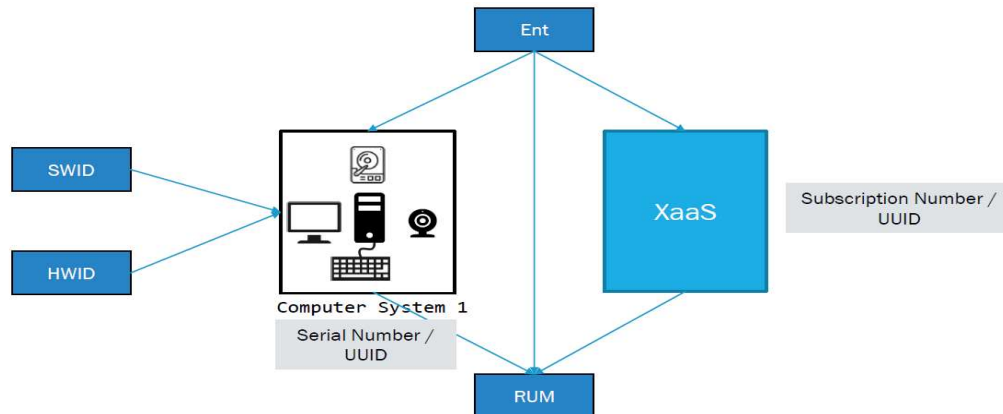
4.2.7 19770-7 タグオーケストレーション TR(Day 3)

— 7 は、— 6 の目処がついてから開発予定であるが、TR として、クラウドコンピューティング/仮想マシン (VM) 環境、NFV (Network Functions Virtualization : ネットワーク機能仮想化) と SDN (Software-Defined Networking : ソフトウェア定義型ネットワーク) , モノのインターネット (IoT) , セキュリティ管理、オープンソースソフトウェア/コンテナ, ITAD (IT Asset Disposition) でタグがどのように利用されるかについてユースケースを記述する。ボランティアの積極的な参加を募集する。

● NFV & SDN のタグオーケストレーションの例



- タグの関連



4.2.8 19770-8

新たに SAM Charter (<https://www.samcharter.com/about-sam-charter/>) の ITAM Accelerate とのマッピングを行うことが承認された。Rory Canavan と Kylie Fowler が ITAM Accelerate と 19770-1 : 2017 の間の 19770-8 マッピングを作成する。

4.2.9 19770-9 IT Asset Inventory Specification (Day 3)

IT 資産インベントリ仕様について TS を開発する。NP と DTS 投票を行い、SC7 で承認されれば、WG21 にプロジェクトをアサインし、Project editor として、Roel Decneut を選出し、TS を 12 カ月 SDT で開発する。

4.2.10 19770-10 ガイドライン TR(Day1)

-10 の開発状況が David より報告された。現在のメンバーは 27 人、約半数がアクティブなメンバーで約半分は ISO 外から参加している。新メンバーを歓迎すること。2020 年 12 月から月例会議を開催し、構成についてのアンケート、アンケートを考慮した開発作業を続けている。作業は、ディスカッションドキュメントを使用したグループディスカッションと電子メールによる投票で進めている。外部レビュー用の WD ドキュメントも用意されている。TR (Technical Reports) にするか TS (Technical Specification) にするか議論も行われ、取り合えず TR で進めることになった。現 Co-editor の Geoff Worsley が外れ、新 Co-editor の選出についても議論されたが未定。

4.2.11 19770-11 ITAM システム監査・認証機関への要求事項(Day3)

IS (International Standard) として 6 月に出版が完了した。

4.2.12 19770-12(SaaS)/19770-13(PaaS/IaaS)(Day 4)

SaaS/PaaS/IaaS の議論は、規格番号が SC7 の resolution でそれぞれ、「ISO/IEC TS 19770-12 IT asset management: Guidance for Open Source & Virtual Containers」, 「ISO/IEC TS 19770-13 — IT asset management: Guidance for ITAM & Sustainability」に変更された。

4.3 既存及び新規スタディグループ（SG）報告

4.3.1 ITAM Charter SG（Day 4）

ITAM Business Plan の目次変更について報告された。

4.3.2 ITAM for Network & Storage（Day3）

この SG で考察された内容は引き続き、Guidance for Open Source & Virtual Containers（-12）に引き継がれる。

4.3.3 Cybersecurity, Block Chain & ITAM SG（Day 3）

サイバーセキュリティの観点で ITAM をブロックチェーンを絡めることは有意義であるが、特に目新しい報告はなかった。

4.3.4 ITAM Evangelism（Day1）

ITAM Standards の Web サイトの運営、ソーシャルメディアとして Wikipedia の改良、ITAM フォーラムからのフィードバックと WG21 の作業のためのサーベイ方式、ITAM フォーラムマガジンでの WG21 の作業とメンバーの紹介、エバンゲリズム WG の役割について報告があった。

4.3.5 ITAM for IoT SG（Day 2）

IoT のユースケースを検討しているがあまり進んでいない。当 SG に対して、-7 チーム及び-10 チームと協力して、IoT のセキュリティを含めた管理についてのユースケースを適切に組み込んでいくことが要請された。

4.3.6 Open Source & Containers SG（Day2）

OpenChain オンライン教育コース及びオープンチェーン仕様の適用に関する「セキュリティ使用法リファレンスドキュメント」については作業中。

Container については、コンテナ型仮想化として Dockerfile の説明と管理ツールとしての「kubernetes」の概念が説明された。Dockerfile ではライセンスの管理も難しく懸念される。通常の実行可能コンテナイメージが構築されると、対応するソースコードがソースコンテナイメージ付随する。このソースは、実行可能イメージと一緒に配布され、同じレジストリでホストされる。ソースは実行可能イメージと一緒に配布される。この「ソースイメージ」（別名「ソースコンテナ」）は、ペイロードが実行可能コードではなくソースコードであるコンテナイメージであり、勘違いしやすい。また、現在、命名規則によって識別されているが、将来は OCI アーティファクトとして識別される。オープンソースと ITAM、コンテナと ITAM の固有の課題を説明し、オープンソースのユースケースの 19770 標準のファミリをコンテキスト化したドキュメントが必要となるということが報告された。

WG21 としては、TS として規格化することを承認、また、-7 及び-10 と協力し、ITAM for Network & Storage に関連する記事を取り込むよう要請した。

SC7 の Resolution で正式に規格名が、19770-12 — IT 資産管理：オープンソースおよび仮想コンテナのガイダンスとして、TS を開発することになった。NP および/または DTS 投票にかけ、PDTs が SC7 で承認された場合、プロジェクトエディタとして Trent Allgood（US）を任命し、12 カ月 SDT（Standard Development Track）で TS（Technical Specification）を開発することが承認された。

4.3.7 Sustainability SG (Day2)

SG の目的は、「IT 資産管理 (ITAM) 、19770 ファミリーの標準と環境の持続可能性の間の関係を確認し、WG21 による検討のために、必要となる変更あるいは追加をアドバイスすること」である。言い換えれば、IT 資産の再利用の観点から WG21 に必要な規格を提案することである。2019 年度の資産で IT 資産の 17.4%のみが回収され、リサイクルされたが、残りは破棄されている (国連の GlobalE-waste Monitor 2020 より)。これは、保守的に見ても 570 億ドルの重要な資源が破棄されたことになる。当 WG は、2021 年 1 月にスタートし、20 名のボランティアが参加し、2 週間に 1 回 (火曜日午後 2 時 BST) の会議を行っているとのこと。作成している内容は以下の通り。

Table of Contents

Table of Contents	2
Executive Summary	3
Introduction	3
Authors, Editors and contributors	3
Part 1 - Sustainable IT Asset Management	4
The business case for sustainable IT	4
Buying Better	5
Smarter choices throughout the IT Asset Lifecycle	6
Global action towards climate change	6
Part 2 - IT Asset Management and the Circular Economy	9
Introduction	9
Circular Economy in the context of enterprise ICT	10
Reverse logistics and alternative ecosystems	11
Carbon footprinting ICT	11
Balancing energy efficiency with "asset sweating"	12
Key take-aways for ITAM professionals to integrate a circular chain	12
Section 3 - Prolonging the useful life of IT Assets	13
Introduction	13
The Pros and Cons of Reuse	14
Disposition Options	14
Selecting an ITAD Partner	15
Action Plan	16
Conclusion	16
References	16

WG21 からは、ISO サステナビリティ MSS 規格をレビューし、利用可能な ISO 記事に関連付けて ITAM とサステナビリティに関する記事を書くことが要請された。

SC7 の Resolution で正式に規格名が、ISO/IEC TS 19770-13 「IT asset management: Guidance for ITAM & Sustainability」で NP、DTS 投票後、承認された場合、プロジェクトエディタとして Martin Thompson (ITAM Forum - Cat C Liaison) を選任し、12 カ月 SDT (Standard Development Track) で TS (Technical Specification) を開発することが承認された。

4.3.8 Information Asset Management SG (Day2)

本 SG が前回の国際会議後に設置されたがあまり進んでいない。ただ、情報資産管理に関する ISO 標準は沢山あり、WG21 としても 1 とは別に検討する必要があるかどうかについて検討しなければならない状況にある。

4.4 その他の報告

4.4.1 SC27 リエゾンの活動 (Day 3)

SC27 リエゾンより、SC27(27000 ファミリ)の開発状況が報告された。

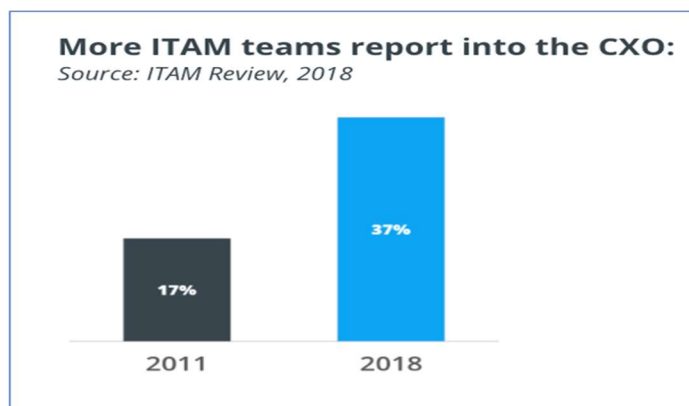
4.4.2 19770 Certification (Day2)

ITAM Forum から 19770 の認証についての提案があった。基本的に — 1 , — 5 , — 1 1 をベースに認証を行うことを想定している。2020 年度の活動としては、戦略の方針、プレスキャンペーン、コミュニティマーケティング、マネージャーの採用、ディスカッションボード、ドイツ支部パイロット、認証スキームの開発、サステナビリティ研究会、コミュニティマネージャーの採用などの作業を行っている。結構進んでおり、プレスリリースも行っている。

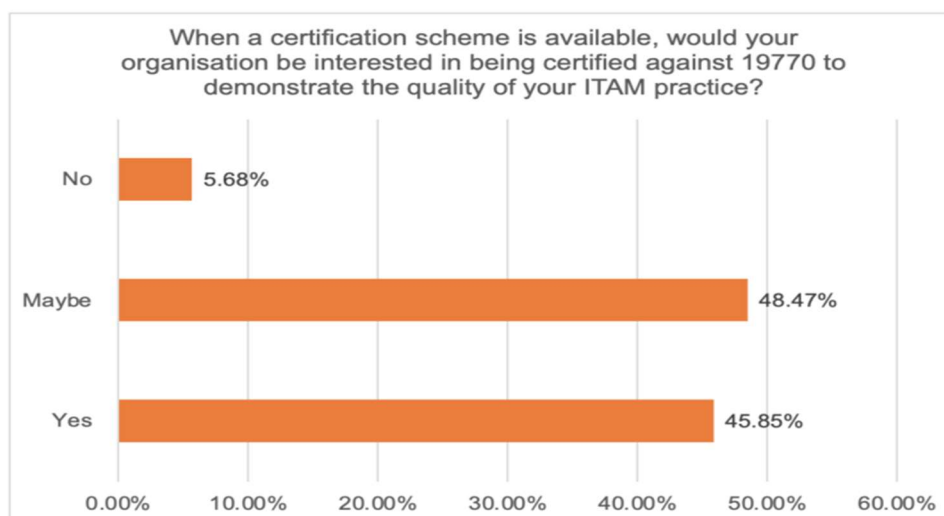
<https://itamf.org/news/itam-forum-begins-process-of-creating-world-s-first-itam-iso-certification-program-with-appointment-of-secretariat>

- 注目すべき情報

- ITAM の重要性の進展



- ITAM への需要



Source: <https://www.itassetmanagement.net/2020/12/17/poll-reveals-strong-interest-in-19770-certification/>
N=227, December 2020, global

- ITAM Forum で行うことの妥当性

















- ISO 規格機関は、業界が行う規格の認証スキームを構築していない。
- ITAM Forum は非営利ベースで一緒に働いており、ITAM 業界のメリットになる。

- ITAM Forum の概要

<p>VISION: "All organizations investing in technology have an appropriate ITAM capability delivering business value"</p>		<p>MISSION: "Our mission is to promote the business practice of ITAM"</p>	
<p>GUIDING PRINCIPLES:</p> <p>Not for profit – The ideal mechanism to ensure ITAM Forum is independent and impartial, serves the best interests of the industry and is able to rally support.</p> <p>End user led – led and governed by a Trustee Board, the majority of which are from end user organisations. To ensure ITAM Forum is realistic, relevant and delivers value to real life practitioners.</p> <p>Collaborative – ITAM Forum is constructive and collaborative, designed to bring all ITAM industry stakeholders to the table in order to push the industry forward.</p>		<p>OBJECTIVES:</p> <p>Enablement - Enable ITAM professionals to communicate the value of ITAM.</p> <p>Evangelism - Encourage more organizations to build an ITAM practice, attract more ITAM professionals into the industry</p> <p>Community - Build a global community of ITAM professionals so they can learn from each other, share best practice and progress their careers.</p> <p>Certification - Build a globally recognized framework for assessing against the ISO standard for partners, tool providers and end user organizations</p>	

- 評議会メンバー

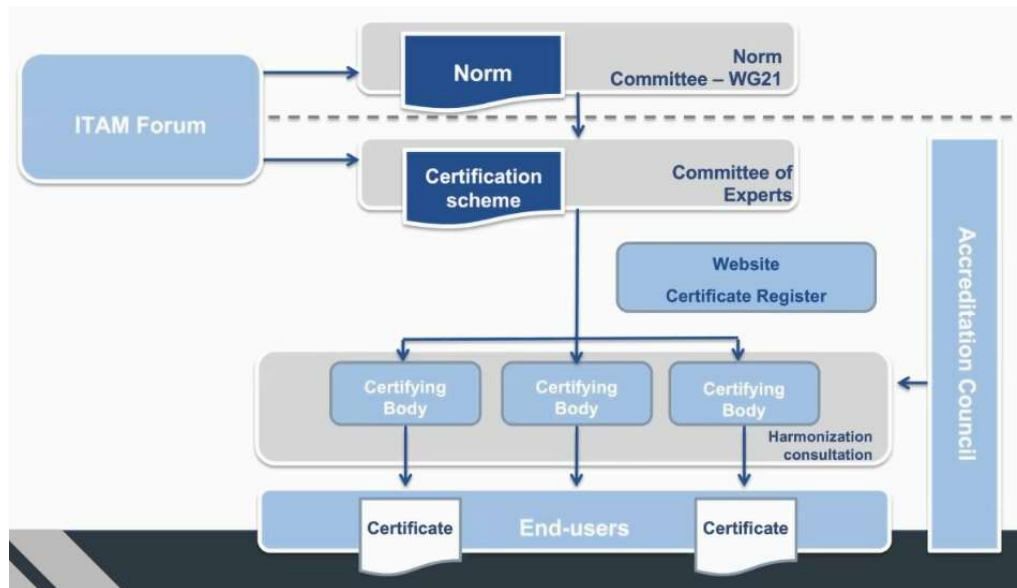
Board of Trustees

End-user trustees							
							
Bryant Caldwell P&G	Rachel Ryan Danske Bank	George Arezina Thomson Reuters	Melody Ayeli Toyota North America	Elise Cocks Freddie Mac	Brett Zurbrick Bank of Oklahoma	Julia Veall Vodafone	Denise Lee CVS Health
Industry trustees							
							
Martin Thompson ITAM Forum Founder	Ron Brill Anglepoint	Eric Chiu FisherITS	Roel Decneut Lansweeper	Johannes Biesing Aspera	Barry Pilling Cortex Consulting	Sinisa Lukacev Gemini Six	Sherry Irwin TAM Inc

- 認証の概要

- ISO/IEC 19770-1 Requirements
- ISO/IEC 19770-5 Overview and vocabulary
- ISO/IEC 19770-11 Requirements for bodies providing audit and certification of IT asset management systems

● 組織関連



Accreditation Council
 Norm Committee-WG21
 Certification scheme
 Certificate Register
 Certifying Body
 Harmonization consultation
 Certificate

認定評議会
 規範委員会-WG21
 認証スキーム
 証明書登録
 認定機関
 調和相談
 証明書

● スケジュール



4.4.3 Cisco Smart License Management (day2)

Cisco の「Smart License Management」の説明があった。

4.4.4 Cross-References and Glossaries (19770-5) (Day3)

Roger が作成した用語のクロスレファレンスを作成するツールについて説明があった。

4.4.5 FinOps & ITAM (Day4)

Ron から新しく提起された。WG21 コンビナは JTC1 / SC 7 事務局と協力して、「FinOps Foundation」と WG21 の間にカテゴリ C の連絡関係を確立するために必要なことを行い、WG21 が必要な文書を提出することを条件として、J.R.Storment を最初の連絡担当者として任命します。

5. 今後の開催予定

- 2021 Interim Meeting : 1-4 Nov 2021, Virtual
- 2022 Plenary Meetings : May/ June 2022 未定 Dec 2022 : Virtual

以上.